

「月刊！スポ協ナビ」 5月 22 日 (木)

～設立 70 周年を迎えた『豊橋山岳会』の方にお話を伺いました～

出演 豊橋山岳会会長 森 紀夫

豊橋市スポーツ協会 金田英樹

FM とよはし いいだまき



(いいだ)

はーい、始まりました月刊！スポ協ナビ。毎月第4週目のこの時間にお届けしております。10月10日は体育の日だった時代を経て、10月の第二月曜日に変わり、そして、名前も体育からスポーツに。それに伴って、2020年、豊橋市体育協会も豊橋市スポーツ協会となりました。今、豊橋市で、どんなスポーツの大会が開催されているの

か、どんなスポーツが熱いのか、そんな話題を通して、スポーツの魅力をお伝えして行くコーナーです。はいというわけで、今日も豊橋市スポーツ協会から金田さんにお越しいただいております。よろしくお願ひいたします。 ゴールデンウィークも終わりまして、6月もうすぐですけれども、沖縄は今日梅雨入りですね。

(金田)

だんだんスポーツをするのにいい気候に入ってきたんですが、このところすごく暑いですよね。急に真夏にもなるようなそんな日が続いてます。来週は気温も下がるみたいで、健康的には不安なところが多いんですけども。やはり気温が上がってくると、心配なのは、熱中症ですね。すでに熱中症症状で運ばれる方も見えるんですけども、特にスポーツをするっていう話になると、選手はもちろんのこと監督、コーチ、それから観客の人、見てる人たちも、熱中症の危険っていうのは当然あるので、体調管理に充分気をつけてスポーツを楽しんでもらいたいなと思います。

(いいだ)

そうですね。急に暑くなってきたっていうのがポイントですね。まだ体が熱さに慣れていないので、余計にリスクが高まっていると思います。

(金田)

今月は、プロ野球公式戦が開催されまして、市民球場に11000人を超える観客の方が見えまして、中日が勝ちましたので、観客の方た

ちも喜んで帰られたんじゃないかなと思います。

(いいだ)

ビールも美味しかったですね。

(金田)

それと、もう 1 つは三遠ネオフェニックスのチャンピョンシップ。残念でしたが、琉球との戦いがすごかったです。接戦で本当に最後勝ったかと思いました。向こうもやっぱりね、たまたま入ってしまったというといかんですが、入れたんですが、ああいう結果になってしまって、3 戦目も接戦だったんですけど、結局最後は負けてしまったということですね。ただここまでやれたので、浜松アリーナの方も、観客の人がたくさん来ていただいたんで、選手の方々も思いきりやれたんじゃないかなっていう気がしますね。また、優勝パレードがあるのかなと、中地区優勝なので。その時はまた皆さん選手と一緒に喜んでもらえたらなと思います。それでやっぱりこの季節、ハイキングだとか、登山とか、いい季節になってきましたので、今日は私どもの加盟団体の一つである豊橋山岳会の方をゲストとしてお招きしております。いいださんの方からご紹介していただけたらと思います。

(いいだ)

今日は設立70周年を迎えた豊橋山岳会から、会長を務めて見える森紀夫（のりお）さんにお越しいただいております。

(森)

こんにちは、豊橋山岳会の森と申します。よろしくお願いします。

(いいだ)

ありがとうございます。森さん、まずは、豊橋山岳会についてお話を
していただいてもいいですか。

(森)

豊橋山岳会は昭和30年、西暦で言うと1955年になりますけども、
豊橋スキー山岳会として設立して、昭和32年に豊橋山岳クラブと
して独立。昭和33年に豊橋山岳会に名前を変えて、今に至ってい
ます。地元三河の低山ハイクからヒマラヤとか海外遠征、登山のジャ
ンルを問わず、季節を問わず幅広い活動を続けています。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。最初は豊橋スキー山岳会という名前だ
ったんですね。

(森)

そうですね。ゲレンデだけじゃなくて、山スキー、今でいうと、バッ
クカントリーっていうようになりますけど。当時は担いで、上って、
滑ったりということをやっていたようです。

(いいだ)

どのへんの山でやられてたんですか。

(森)

私は山スキー知らないんで、詳しいことわからないんですけど、もう
70年だからお元気やれば90歳ぐらいの方も、大先輩なのでちょ
っとわからないんです。

(いいだ)

本当に、かなり遠くの方まで行かないと。バックカントリーなんかで
きないんじゃないのかなと。

(森)

最近うちの会でやってる人は木曽の御岳とか、そのあたりの高山っ
ていうか雪のあるところに行ってやってたと思います。

(いいだ)

はい、そんな山岳会の目的について教えていただけますか？

(森)

会の目的としては登山を通じて、健全な精神と身体を養い、教養、技
術を高めること。また、文化や自然愛護の精神の高揚と会員相互の親
睦を図ることとしていて、年間を通して色々な活動に取り組んでい
ます。

(いいだ)

ありがとうございます。70年ということで、かなり歴史もあるわけ
ですけれども、ホームページを拝見してると、結構若い女性の方も多
くて、結構いろんな所にいたよっていう事をブログであげてらっし
やってて、皆さんで色々と積極的にされてるし、発信もされてるんだ
なって思うんです。メンバーとしては、どんな感じなんですか？

(山岳会)

会員は30名で、女性の方が、そのうち7名です。年齢的には30
代から、昔から入っている会員の方も70代までとか幅が広いし、年

齢に合わせて、行く山も色々なんですよね。

(いいだ)

本当に山の行程とか、難易度みたいなのがあるとお聞きしますけれども、色々な山を皆さんで登っていらっしゃるんですか。

(森)

そうですね。女性の方が最近は活発に活動されてて、あの屋久島の宮之浦岳っていう日本の100名山のひとつなんんですけど、こちらへ行ったり、それから北アルプスの方へ行かれたり、結構女性の方が、最近活発に登られてますね。

(いいだ)

森さんはいつから会員に入られてるんですか？

(森)

私は2001年ですから、25年ぐらい前です。

(いいだ)

なんかきっかけがあったんですか？

(森)

私、以前は私立高校で教員やってまして、そこに見えた同僚の先生が豊橋山岳会の副会長さんとして、PTAで富士山に行こうって事になって、台風で中止になっちゃったんですよ。それで楽しみにしてて、色々かっぱとか買ったんですけど、使えずに、それでどっか連れてってとおねだりして、新潟にある妙高山に連れてってもらったんですね。で、そこの景色が素晴らしいで感動しまして、それから一緒に連

れて行ってもらうようになりました。

(いいだ)

いや、やっぱりね、山に登った時のその達成感とか、上ってみないとわからないこの感覚っていうのもあるんですね。

(森)

あのドーパミンも出るっていうのを、最近テレビで言ってましたけど。結局喜びだとか、山で食べるものがおいしいとか、そういうのも含めて、達成感ありますよね。

(いいだ)

いやでも、本当に登山ってね、富士山なんかもそうなんんですけど、色々厳しいというか大変っていうイメージがどうしても付きまとつところがあると思うんですけれどもいかがですか？

山岳会の皆さんとしては、どんな感じで活動されているんですか？

(森)

月に1回ですね。あの月例山行っていう計画をして、会員であれば、全員参加できるんですけど、仕事の都合とか、家の都合もあるので参加できる人が参加できる山を計画するということを、年間で毎月やってます。だいたい10名前後それに参加されていて、個人で行きたい人は近くの本宮山とか葦毛湿原からいろいろですね。

(いいだ)

やっぱ、季節に応じて色々と山の景色とか厳しさみたいなものも変わってくると思うんですけども。自然を相手にしてるっていう事

から知識とか、経験っていうのも、すごく大事になってくるかなと。それを、後輩たちに皆さんどんどん伝えてるみたいな、そういうことですよね。

(森)

そうですね。本なんかで読めばある程度のことは書いてあるんですが、実際に行ってみないとねっていうところが。自然ですからね。だから先ほど申しましたように、月に 1 回いろんな山を変えて、岩山もあるし、ロープを使うような山も、あと沢ですよね。渓谷を滝を登っていくとか色々あるんで、その都度準備の仕方とか、冬と夏では持つてくものが違うんですよね。やっぱり歩き方とか、岩場の手のつき方、足のつき方みたいなのは実際に山に登った時に、伝えていくようにしてますね。

(いいだ)

最近、特に外国人の方が多いイメージなんですけれども、Tシャツで登ってしまって寒すぎて救助を要請みたいな、つい最近ニュースで目にしましたけれど、そういう事が無いように登られる方には伝えられないといけないですね。

(森)

そうですね。僕も北海道の方に登ってた時に、羊蹄山というのがあるんですけど、そこを一人で行ってたんですが、神奈川からご夫婦でみえた方で、水は持っていないですかって言われて山の真ん中あたりで陽も降りて来てたんですけど。えーっていって、自分は予備で 1 リ

ツトル持ってたんで使ってなくてそれをあげたんですけど。北海道の山小屋って、営業小屋っていうのはなくて、北アルプスとは違うんですよね。まあ神奈川から来たということで、これ使ってくださいみたいなこともあります。よく準備された方がいいなって事はありますよね。

(いいだ)

やっぱり色々なリサーチも山ごとに決まっているっていうのがありますよね。山を結構登られてる方でもご存じない場合もあるって事ですよね。

(森)

そうですね。そのあたりはやっぱりきちんと調べて。ガイドブックには、その山は水はありませんよって書いてあるんだけど、下にキャンプ場があるから、そこでしっかり汲んでってくださいねって書いてあるんだけど。まあ来ちゃったんでしょうね。暑かったので、飲んじやったんですね。引き返す選択肢もあったと思うんですけど、自己責任ですからね。助けてはあげたけど気をつけないと。

(いいだ)

本当ですね。会えて良かったですよね。本当にそうやってね。いろんな危険もありながらでも、魅力もたくさんあるっていうんですね。皆さん是非山に興味を持っていただきたいなと思うんですが、近々、市民スポーツ祭も行われるって聞いてるんですが、この内容について教えていただいてもいいですか？

(森)

先程もお話したように創立 70 周年ということでの行事です。例年市民ハイキングっていう形で、スポーツ協会でやってるんですけども、葦毛湿原からゴミゼロ登山ということで開催したいと思います。5月25日日曜日なんんですけど、朝の 9 時受付をしてまあ事前の受付もしてるんですが、解散も 2 時半ごろということで。対象は市内在住の小学生以上で、小中学生の方は保護者同伴ということになります。コースは、葦毛湿原から上がっていって、一息峠にベンチがあるんですけど、そこで休憩して、NHK の中継所を経て、座談山っていうところを尾根づたいに行って、そこから折り返して帰ってくるということで、歩行距離は 8 キロくらいになります。どなたでも参加できますので、山岳会の会員も同行しますので安心してご参加下さい。メールでの締め切りはしたんですけども、是非参加したいという方は、当日朝受付用紙を持っていきますので、そこで書いていただければ大丈夫ってことです。

(金田)

まだ余裕がありますので、この放送を聞いていただいて、是非という方はね。あの当日でも結構ですので参加お願いしたいと思います。

(いいだ)

ごみゼロと名前を付けていただいてますが、実は、豊橋山岳会さんとごみゼロはとても縁が深いですね。というか、もともと豊橋山岳会の会長の夏目さんが、きっかけを作ってくれているっていうで、そうい

うところもあるんですよね。

(森)

そうですね。昭和 50 年というとだからちょうど 50 周年ですよね。だから、その時に自然歩道をつくるときに、結成された豊橋自然歩道推進協議会の役員をされてた当時の山岳会長の夏目久夫さんが、自分のゴミは自分で持ち帰りましょうっていう合言葉で、530運動の推進を豊橋に提唱したっていうそういう関係がありますね。時代を先取った現代の SDGS につながる考え方かなって、僕たちは誇りに思ってますけどね。

(いいだ)

本当ですね。よく 530 運動の事をお話ししたときに、私は 530 広報大使なもんですから、それこそ、高度経済成長の時代で、皆さんのがレジャーっていうものを始めて、その時に、みんながゴミを落として帰るっていうのを夏目さんが胸を痛められて、ゴミも自分で持ってきたものを全部持って帰ろうね、みたいな、そういう事をね。広めたっていうので。はい、本当にそこから始まって、ごみゼロ運動の精神としては、ゴミを捨うこと、ゴミを捨てない心を育むっていうことですね。

(森)

そうですね。それを基本にやらせていただいているので大事ですね。私も退職しましたけど、小学校、中学校で教員やってまして、各学校の周りのごみを拾いに行ったり、朝倉川の方に拾いに行ったり

とか。そういう活動を通してこの子たちが大人になったときに、そういうことを覚えててくれて、環境に優しい人になってほしいなっていうぐらいでやってました。

(いいだ)

みなさんそういう思いを胸に成長されて、全国にも行ってらっしゃるだろうし、どういうとこでも、530運動って意外と全国区というか、名前が通ってて。

(森)

豊橋のことは知らなくても、ごみゼロっていう言葉は知ってるというんで嬉しいことですね。良いことですよね。豊橋が発祥で良かったと思います。

(いいだ)

もっともっと、全国に向けて発信していかないといけないなと思っておりますけどね。豊橋山岳会も今後も発展というか、活動を広げていかれると思いますけれども、目標といいますかありますか？

(森)

目標は今年 70 周年なんでやっぱり次の 80 周年を迎えるように、安全登山ができるような若い会員を育てていきたいなという風に思っています。

(いいだ)

はい、そうですよね。そんな豊橋山岳会に入会するっていうのは、どういう風にすればいいでしょうか。

(森)

毎月第 4 水曜日 19 時 30 分ですけど、豊橋公園の隣にある豊城生涯学習センター 2 階の第二会議室で定例会を行ってますので、それを見学に来ていただくのが雰囲気も分かっていいかなと。見るだけで大丈夫です。見たから入れよっていうことは言いませんので、心配せずに来てください。

(いいだ)

皆さんの多分そうやって話してる様子を見て、こうちょっと山を登ってみようかなって私も登ってみようかなっていう気になっていただくという。はい、ありがとうございます。では、改めて、と安の魅力も含めて、この放送をお聞きになっている。皆さんに、メッセージを森さんからよろしいですか？

(森)

一番は自分の足で歩いた達成感でしょうか。山もいろいろありますし富士山という高い山もありますし。それからこの近くの湖西連峰とかいう低い山もあります。それから、険しい岩山ですよね。いろんな山がありますが、それぞれに、自分自身で歩いた山っていうのは達成感があります。さっき言ったように、ドーパミンの話が出てましたが、ご褒美で素晴らしい景色とか、美しい花が咲いていたり、自然が待っていますので、そういうことが魅力かなと思います。日本 100 名山がだいぶ前から注目されますが、その著者の深田久弥さんは、100 の頂に 100 の喜びありということを本で記しています。

以上です。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。みなさん結構若い方 一回登ってみるとみたいなね。本当に山の魅力があると思います。

(森)

そうですね。ぜひ経験してみて欲しいと思います。

(金田)

やっぱりきっかけが必要かなあっていうふうに思いますね。あの会長と話してたんですけど、よくわからない初心者が自分で行こうっていうのは、なかなか大変なので、知ってる方とまずは一緒にやって、今言われるような達成感を味わってもらって、徐々に徐々に行けるような形を作らないと、なかなかあの山にさあ登ろうといってもなかなか出れないですねっていう感じですよね。そんな話をさっさせてもらったところなんんですけどね。

(いいだ)

最初は本宮山さん、次は富士山みたいね。では金田さん最後によろしいですか。

(金田)

先程も話に出たスポーツ祭ですが、豊橋山岳会で 70 周年の ごみゼロ登山を 5 月 25 日日曜日に開催します。小学校から高齢者まで、気軽に楽しめるハイキングコースを設定してもらっていますので、ぜひ気軽に参加してもらえるとありがたく思います。先ほどのごみゼ

口と山岳会の関係の話も出てましたけれども。ゴミゼロ活動をしながら、登山を行って、山を汚すことなく、きれいに使っていこうという趣旨が、今回の中に入っていますので、ぜひそういうことも学びながらハイキングに行ってもらえたならありがたく思います。当日の受付で大丈夫ですので、当日参加をお願いします。ホームページの方に場所とかが書いてありますので、ご覧をいただきたいと思います。ただ心配なのが、雨なんですね。少し天気の方が良くない情報が出てますので、雨の場合には、基本的に中止ということだそうですので、予めホームページの方で確認をして参加していただけたらと思います。それ以外にもスポーツ教室、スポーツ祭からスポーツパートナーズの事業も5月から6月にかけてやってますので、そちらのほうへの参加もお願いします。その中で1つ紹介させていただきたいのがスポーツパートナーズの主催になるんですが、「ウォーキングフットボールナイト」を今回初めてというか、昨年は体験会をやったんですが、サッカーだと走ってボール取って蹴ってということになりますが、ウォーキングですから歩くんですね。走っちゃいけない、人に近づいちゃいけないとかですね、ボールを取り行ってはいけないとか高く蹴ったらいけないとかですね。気軽に楽しめるウォーキングフットボールっていうのをサッカー協会の方でも普及を始めていまして、それをスポーツ協会の方で今回教室という形で取り入れようということで考えています。前期コース5回、後期コース5回ということで、ホームページの方で紹介をしています。一回目が5月28日で、

小学生からシニアの方まで男女問わず参加できます。私も体験会でやったんですけれども、年齢に関係なく女性も男性も一緒に楽しめますので、こちらもぜひ参加していただきたいなというところです。

(いいだ)

ウォーキングフットボールも興味深いですね。ナイターですので、夜も活動できる季節になりますね。詳しくはホームページ見ていただきたいと思います。はい、今日はスポーツ協会からは金田さん、そして豊橋山岳会からは会長の森紀夫さんにお越しいただきました。ありがとうございました。

(森、金田)

ありがとうございました。